

## 病虫害発生予察特殊報 第1号

害虫名：ニホンナシハモグリダニ（仮称）  
学名：*Eriophyes* sp.  
作物名：日本なし

### 1 発生経過

- (1) 平成27年5月上旬に、県南部地域の日本なし栽培園地で、葉と果実に火ぶくれ症状が発生し、葉の火ぶくれ症状の中にフシダニと考えられるダニが確認された。発生園地を調査すると、火ぶくれ症状は園地全体のほぼ全ての日本なし樹で発生していたが、同園地内の西洋なし樹や、隣接園地のりんご樹などには火ぶくれ症状は認められなかった。
- (2) 法政大学植物医科学センターの上遠野富士夫教授に同定を依頼した結果、本県では未発生のニホンナシハモグリダニ（仮称）と判明した。
- (3) 本種は、平成23年に神奈川県の本なし栽培園地で、同様の葉の火ぶくれ症状が発見され、平成24年に国内初確認のフシダニとして特殊報が出されている。

これまで、世界で報告のあるナシ属に寄生し葉に火ぶくれ症状を引き起こすフシダニ科 *Eriophyes* 属は、*Eriophyes pyri* (Pagenstecher, 1857)、*E.pseudosidius* (Wilson, 1965)、*E.pyrimarginentorquens* (Nalepa, 1917) の3種がいる。日本で発見された2種（神奈川県で発見された本種と西洋なしの葉に火ぶくれ症状を引き起こすフシダニ（平成25年に北海道で確認））は、既知の上記3種と形態が異なっていることから、平成26年に上遠野教授により、それぞれニホンナシハモグリダニ (*Eriophyes* sp.1) とセイヨウナシハモグリダニ (*Eriophyes* sp.2) と名付けられた。

### 2 形態

成虫は、体長が約0.2mmで、淡黄色のうじ虫型。卵は球形で半透明。

### 3 生態

生態については不明な点が多い。神奈川県の情報によると、本種は芽の中で越冬、発芽とともに芽から脱出、葉に火ぶくれ症状を引き起こし、虫体はこの火ぶくれ症状の内部に生息して、暖かい時期には葉裏の開口部から外に出て、新たに被害を及ぼすものと推察されている。本県でも9月上中旬には葉裏に脱出している成虫を、10月下旬には芽内部に侵入している成虫をそれぞれ観察している。

### 4 被害及び寄主植物

#### (1) 被害

葉では、本種が寄生した部分は葉表側にやや膨らんだ火ぶくれ症状を呈し、その内部に本虫が確認された。火ぶくれ症状は、葉表では、被害が進むと黄色～茶褐色に変色し、葉裏では暗褐色に変色し、微小な開口部が見られた。果実では、幼果に葉と同様の火ぶくれ症状が形成され、その中心付近に微小な開口部が見られたが、火ぶくれ症状の内部に虫体は確認できなかった。これまでのところ、成熟果実の被害症状は確認できていない。

#### (2) 寄主植物

現在、寄生が確認されているのは日本なしのみである。

## 5 防除対策

- (1) 日本なしにおける本種の登録薬剤はない。
- (2) 本種の被害拡大を防ぐため、発生園地では穂木等の譲渡は行わない。
- (3) 火ぶくれ症状のある葉は、埋却するなどして早期に処分する。



図1 火ぶくれ症状 (葉表)



図2 火ぶくれ症状 (葉裏)



図3 被害状況



図4 火ぶくれ症状 (幼果)

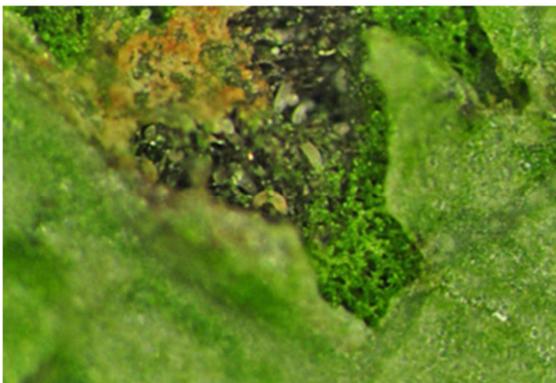


図5 火ぶくれ症状内部のニホンナシハモグリダニ

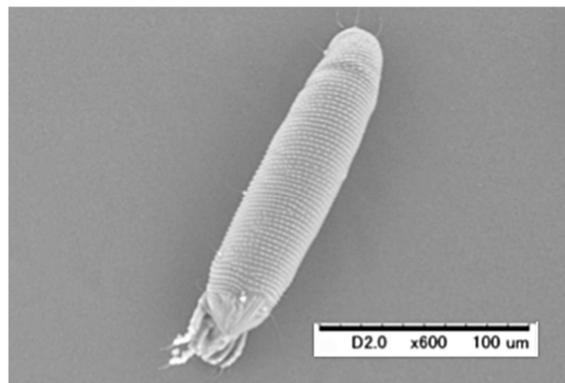


図6 ニホンナシハモグリダニの電子顕微鏡写真  
(上遠野教授提供)

長野県病害虫防除所 (中南信担当)

所長：小林文彦

担当：南島 誠・小池英彦

TEL：0263-53-5642 (直通) FAX：0263-54-4503

E-mail：bojo-y@pref.nagano.lg.jp